



KAMOGAWA COMMONS 鴨川 commons - 未来の京都の新しい都市軸

今の京都では、オーバーツーリズムの問題が起きている。公共交通機関の混雑、私有地への無断立ち入りなどで、京都の街並みの原風景が壊れる懸念が生じた。京都の街並みの原風景を守るため、未来の鴨川沿いに、観光シーズン期間限定の仮設建築物「鴨川 commons」を提案する。「鴨川 commons」は鴨川沿いにある京都の夏の風物詩「納涼床」のように、観光シーズンに合わせて設置される。京都市民の人口の減少や空き家は問題となる一方、日本全国や世界から来る京都の大学生は多く、未来の京都を担うのは京都市民だけではなく、京都に来る大学生たちでもある。本提案の「鴨川 commons」という仮設の建築空間に、京都市民と大学生たちはすだれを自由に調節することで、交流の場や学ぶの場、展示スペースを作る。「鴨川 commons」で、京都市民、京都に住む大学生はイベントや講座（京都の歴史文化）を開き、混雑で困っている観光客は徒歩で「鴨川 commons」にアクセスでき、イベントや講座で京都市民や大学生と自由にコミュニケーションをとれる。「鴨川 commons」は未来の京都にある重要な機能を担うパブリックスペースであり、京都地元の住民と京都に来る大学生や観光客の友情を築く場所である一方、京都から世界に向けて発信する舞台となり、未来の京都の新しい都市軸となる。

未来の「鴨川 commons」



川端通側、三条通—四条通区間、観光シーズンに近辺の観光名所の混雑を解消するため、観光客の流れを「鴨川 commons」というコミュニケーションの場へ誘う



川端通側、「鴨川 commons」はだれでも気軽に立ち寄ることができる縁側となり、奥の屋根の下にすだれの調節によって交流スペースがつくれる



三条通—四条通区間では、川向う側の京都の夏の風物詩「納涼床」を眺めることができ、「鴨川 commons」は「納涼床」とつながり、まるで絵巻物に描かれていた光景

鴨川側、「鴨川 commons」は対岸の景色を眺望できるテラスとなり、京都市民、大学生、観光客は最先端の AR グラスを利用して、過去の京都と未来の京都を展望できる

